教職大学院年報への執筆要領

書式

1. 共通様式
2. A4判　モノクロを基本
3. 余白 上25 mm 下35mm　 左右20mm
4. １行46字×42行；MS明朝相当10.5ポイントで本文記入
5. ページ番号は組版時に挿入を基本（原稿では挿入しない）
6. 句読点は「，」と「。」を使用する。
7. 数字の表記：１桁は全角、２桁以上は半角で表記
8. その他詳細についてはテンプレートを参照
9. 課題研究の報告
10. ヘッダーに10ポイントゴシック（MSゴシック相当）で「課題研究中間報告」か「課題研究最終報告」と記入
11. 中間報告は１人４ページ以内
12. 最終報告は１人８ページ以内
13. 院生同士でページの再配分は可能とする
14. 文献欄は「社会学評論スタイルガイド（日本社会学会）」の最新版準拠。以下に一部抜粋する（詳細は「社会学評論スタイルガイド（日本社会学会）」の最新版を参照のこと）

* 本文中で言及もしくは引用した文献は，漏れのないようにすべてを文献リストに記載しなければならない．ぎゃくに，文献リストにあげられた文献は，かならず本文中に対応する文献注がなければならない．
* 文献は，［注］の後に，やはり1行あけて，［文献］という見出しの下に，和文の文献も欧文の文献も含めてすべての文献を，著者または編者（共著・共編書の場合は筆頭者）の姓のアルファベット順にリストアップする．
* ひとつの文献にかんする書誌情報を記載しおえるまでは，途中で改行することなく，続けて入力すること．ひとつの文献の記載が複数行にわたるときは，2行目以降は全角で2文字分字下げする．上記の形式を守れるのであれば，ワープロソフトのインデント機能等を使用してもかまわない．
* (著書の場合)
* 著者名，出版年，『タイトル――サブタイトル』出版社名．
* 編者名編，出版年，『タイトル』出版社名．
* 著者名，出版年，「論文のタイトル」編者名編『本のタイトル』出版社名，論文の初ページ-終ページ．
* 原典の書誌情報.（訳者名訳，翻訳の出版年，「翻訳論文のタイトル」所収書の編者名編『所収書のタイトル』出版社名，翻訳論文の初ページ-終ページ．）
* 編集機関名，出版年，『タイトル』発行元．
* 例

宮島喬・梶田孝道・伊藤るり，1985，『先進社会のジレンマ』有斐閣．

高坂健次・厚東洋輔編，1998，『講座社会学 1 理論と方法』東京大学出版会．

舩橋晴俊，1998，「環境問題の未来と社会変動――社会の自己破壊性と自己組織性」舩橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』東京大学出版会，191-224

Fromm, Erich, 1941, Escape from Freedom, New York: Reinehart and Winston.（日高六郎訳，1951，『自由からの逃走』東京創元社．）

内閣府国民生活局，2009，『平成20年版国民生活白書』．

(雑誌等の場合)

* 著者名，出版年，「論文のタイトル」『雑誌名』巻(号): 論文の初ページ-終ページ．
* 例

佐藤嘉倫，1998，「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」『社会学評論』49(2): 188-205．

(インターネット上の情報)

* 著者名，最終更新年，「タイトル」，ウェブサイト名\*，（取得日，URL）．
* 例

日本社会学会，2006，「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」，日本社会学会ホームページ，（2009年2月2日取得，http://jss-sociology.org/about/shishin.pdf）．

付則　　１．本執筆要領は2017年6月20日から施行する。

２．本執筆要領は2018年9月19日から一部改正する。

３．本執筆要領は2020年12月16日から一部改正する（ただし2021年３月修了生は従前の通りとする）。